

グリーンヒルみふねでひょっこ踊りを披露する御船民笑会



多彩な演芸で爆笑の渦誘う

ひょっこ民笑会が施設慰問

5月から本格始動した「御船ひょっこ民笑会」が町内の施設を慰問して、多彩な演芸で喜ばれています。同会は、施設やサロンなどをボランティアで訪問して、一緒に楽しい時間を過ごそうと今年1月に発足。町民生委員・児童委員12人で結成しました。5月28日に御船清流園、30日にはグリーンヒルみふねへ訪問。踊り、皿回し、ひょっこ踊りなどを披露して笑いを誘っていました。事務局の倉岡康夫さん(辺田見)は、「お互いに楽しい時間を過ごせたらうれしい」と話していました。民笑会への申し込みは☎282-2762まで。

移動図書館がやってきた

おはなし隊が御船町を訪問

日本全国をキャラバンカーで巡回する「おはなし隊」が5月21日、カルチャーセンターを訪問しました。「おはなし隊」は、講談社が平成11年から創業90周年記念事業として読書推進に取り組む、読み聞かせの全国キャラバンです。キャラバンカーには、絵本や児童書約550冊が積載。参加した幼児から小学生の親子連れ約50人は、本の世界を楽しみました。参加者の村上由美さん・舞ちゃん(豊秋)親子は、「本の種類が豊富で楽しかった。今後も、読み聞かせの催しに親子で参加していきたい」と話していました。



キャラバンカーの本を楽しそうに読む参加者

御船の酒を愛飲家が品評

「水の鼓動」原酒まつり

御船の酒として愛飲される「水の鼓動」の原酒を披露するまつりが5月14日、町商工会で開かれました。「水の鼓動」は、かつて県下第一の酒造のまちとして名をはせた御船の酒を、みふね両岸会、町観光協会や町商工会などの有志と、通潤酒造(株)(山下泰雄社長、山都町)の全面協力で30年ぶりに復活させた日本酒。原料の米と水には御船産にこだわっています。まつりには愛飲家たちが訪れて出来たての原酒を品評しました。初めて「水の鼓動」を試飲した橋口敏宏さん(滝川)は、「原酒は濃厚で個性があっておいしい。もう少しサラッとした味に仕上げると飲みやすい」と話していました。「水の鼓動」は、冷酒と4合瓶、一升瓶の3種類。町内の酒屋10店で好評販売中です。詳しくは有限事業責任組合ドリーム・パッション☎282-3955まで。



「水の鼓動」の原酒を試飲する愛飲家たち

「幻の滝」1年ぶりの勇姿

第23回ふるさと滝まつり

七滝ふるさと滝まつり(七滝観光推進委員会主催)が5月8日、七滝神社周辺で開かれ、幻の滝「七滝」が1年ぶりに勇姿を現しました。「七滝」は、水流の侵食によってできた7段の岩からなる、落差約40mの名滝。昭和12年以降、上流にできた水力発電所への取水で、水の流れない滝となっていました。しかし地域住民の要望で、平成元年から滝まつりに合わせて放流が行われています。年に一度の放流を一目見ようと滝つぼ周辺には約200人の見物客が集まり、豪快な瀑布に歓声を上げていました。近くに住む楠田誠子さん(七滝)と中内良子さん(同)は、「『七滝』は地元の誇り。何度見てもすごいですね」と絶賛していました。滝まつりは、七滝中央小学校児童の太鼓やバナナのたたき売りなどもあって、終日にぎわっていました。



幻の滝を見ようと滝つぼに多くの見物人が訪れた「七滝」

保育園や小学校に渡された花と野菜の苗



花と野菜の苗をプレゼント

J A 育苗部会が苗を寄贈

J A 上益城女性部御船支部育苗部会(野口英子部長)が5月11日、花と野菜の苗約4,300本を役場へ贈りました。これは、環境美化や食育の推進などに役立てようと、同部会で育てた苗を届けているものです。今年で13回目。千日紅やサルビアなど5種類の花の苗と、ナスやヤーコンなど4種類の野菜の苗が届けられました。苗は、町内の保育園や小中学校など16施設に渡されて、定植されています。野口英子部長は、「食育への感謝や、花を見てきれいな心を育ててもらえたらうれしい」と話していました。

九州2校目の自然学校開校

かんましき自然学校で開校式

「かんましき自然学校」が5月9日、辺田見に開校して、県内外から1期生16人が入校しました。同校は、自然、歴史、文化などの地域資源を活用して専門的な人材育成を目指す国の事業で、九州では2校目。NPOみずのとらベル隊(宮地元理事長)が運営して、環境学や森林学などの学科、河川や農林業などの実践を学ぶ1年課程です。訓練生は来春修了後、自然や環境に携わる仕事などへの就業を目指します。校長の宮地元理事長は、「緑川流域と上益城地域の連携を深めて、教育的産業に結びつけていきたい」と話していました。



開校式で訓練生にあいさつをする宮地元校長